

口は健康のもと Vol.105

高齢者の歯の特徴 ~多い咬耗、摩耗症~

ヒトの歯は6歳で最初の大人の歯が生えると思春期までに子供の歯(乳歯)から大人の歯(永久歯)に順次生え変わります。日本人の平均寿命は男性で79.59歳、女性では86.44歳(平成20年現在)と世界で一番の長寿国です。最初に生える大人の歯はおよそ70年以上も食べ物を噛んだり、ブラッシングなどの機械的刺激が加わり自然にすり減っていきます。

歯ぎしりや咀嚼(そしゃく；食べ物を噛むこと)などにより歯のかみ合わせの部分が病的にすり減り、磨耗することを咬耗(こうもう)症といいます。また歯に何らかの強い機械的刺激が加わり、それが原因で歯に欠損ができることを摩耗症といいます。

通常これらの状態は非常にゆっくりと進んでいくので、痛みなどの症状を訴えることはあまりありません。歯の神経(歯髄)近くまで咬耗、摩耗が進行すると冷たいものを口に含むことや歯に触ることで痛みを感じるようになります。

歯の磨耗が原因でこのような症状が認められる場合は薬剤を塗布したり、削れた部分にプラスチックの詰め物をして刺激を遮断します。歯の表面がすりへると噛み合わせが低くなってうまく食べ物が噛めなくなることがあるのでプラスチックの詰め物や金属の被せもので歯の形態を回復させる必要があります。ぜひチェックしてみてください。



奥羽大学歯学部附属病院 総合歯科

講師 佐藤 穩子

